

AIで請求書処理を自動化するとは何か AI-OCRの仕組みと中小企業での始め方

2026年7月9日 発行

請求書の入力・照合をAI-OCRで自動化する仕組みを解説。月40時間超の削減事例を交えながら、中小企業が今すぐ始められる3ステップをわかりやすく整理します。

この資料の要点

- 請求書処理の手作業コストは「枚数×人件費」で積み上がり、月40時間超になるケースも少なくない。
- AI-OCRは画像・PDFから項目を意味で認識して自動抽出し、仕訳候補まで提示する仕組み。
- クラウド型サービスが充実し、月額数千円から試せる環境が整っている。

なぜ請求書処理は手作業が残りやすいのか

電子帳票が普及した今も、多くの中小企業では請求書処理の一部に手作業が残っています。主な理由は3つです。

- 受け取り形式がバラバラ：PDF・紙・メール添付など、取引先ごとにフォーマットが異なる。
- 既存システムとの接続コスト：会計ソフトへの手入力があるまま続いている。
- 担当者一人に集中しがち：経理が属人化しており、やり方を変える機会が生まれにくい。

月150～200枚の請求書処理に月35～40時間を費やしているケースは珍しくなく、経理担当者の可処分時間の2割近くに相当します。

AI-OCRとは何か

AI-OCRとは、画像やPDFに書かれた文字をAIが「意味」で認識して自動抽出するシステムです。従来OCRとの違いは、項目の意味（「請求金額」「請求日」等）を機械学習で判断するため、フォーマットが異なる複数取引先の請求書を同一設定で処理できる点にあります。

処理フロー

- ・① 受け取り・取り込み：紙はスキャナー、PDFはメール・フォルダから自動取り込み。
- ・② 項目の自動抽出：AIが請求金額・日付・取引先・明細行を認識し構造化。
- ・③ 確認・修正：担当者がブラウザ上で抽出結果をチェック（低信頼箇所を強調表示）。
- ・④ 会計ソフト連携：仕訳候補を自動生成し、承認後に書き出し。

人が「入力する」のではなく「確認する」役割に変わることが、AI-OCRの本質的な価値です。

期待できる効果（事例ベース）

- ・月200件処理：月50時間 → 約10時間（削減率80%）
- ・月150~200枚：月約40時間 → 月約8時間（削減率80%）
- ・入力ミスによる修正・差し戻し工数がほぼゼロに

月40時間の削減では、多くのケースで半年以内に導入費用を回収できるという試算が出やすいとされています。

注意点

- ・手書き帳票・特殊レイアウト：認識精度が下がる場合がある。トライアルで事前確認を。
- ・勘定科目の最終判断は人が行う：AIは候補を提示するものであり、会計知識が不要になるわけではない。
- ・電子帳簿保存法対応：電子取引データの保存要件（改ざん防止・検索性）を満たすツール選定が必要。

中小企業での始め方（3ステップ）

Step 1 処理件数と時間を計測する：月何枚・何時間かを数値化。実数が導入効果の根拠になる。

Step 2 クラウド型サービスでトライアルする：無料期間に手持ち請求書10～20枚で精度と操作感を確認。月額数千円からのプランも多い。

Step 3 CSV出力から連携を始める：いきなり直接連携よりも、まずCSV出力で手入力を減らす。フロー安定後に直接連携へ移行。

株式会社DnDへのご相談

請求書処理を含む経理・バックオフィス業務の自動化・効率化についてご相談を承っています。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>